

PRAEVIDENTIA DAILY (6月24日)

昨日までの世界：景況感が中国で改善、ユーロ圏で悪化

昨日は、米経済指標は市場予想を上回ったにも拘らず、米ドルが対主要通貨で再び全面安となった。豪ドルは、中国 HSBC 製造業 PMI が 50.8 と、前月、市場予想そして景気の拡大・縮小の境目である 50 をも上回ったことから大きく上昇、対米ドルで一時 0.9445 ドルと 4 月 10 日の年初来高値（0.9461 ドル）に迫る水準に達した。NZ ドルも同様に上昇したが、年初来高値では上値も重く、ほぼ指標発表前の水準へ反落している。他方、ユーロはフランス、ドイツそしてユーロ圏 6 月 PMI が軒並み前月および市場予想比で悪化したことから一時下落したが、その後は買い戻されており、方向感のない動きとなっている。

ドル/円は欧州時間にかけて米長期債利回りの低下と共に 102 円割れとなった後、米中古住宅販売件数が 489 万件と前月および市場予想を大きく上回ったことから底入れし、引けにかけては米長期債利回りの持ち直しと共に強含みとなったが、102 円台回復には至らなかった。

他方、新興国通貨は総じて堅調で、南アランドは南アの 3 大鉱山労組がスト収束で合意との報道もあって上昇した。カナダドルは、先週のカナダインフレ率上振れや新興国通貨へのつれ高傾向もあって続伸している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.01	+0.01	-0.00	+0.02	+0.02	-0.00	-0.0	+0.1	-0.6	-0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	-0.01	+0.00	+0.01	-0.04	-0.02	+0.02	-0.7	-0.0	-0.6	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	-0.03	-0.02	+0.01	-0.04	-0.02	+0.02	-0.4	-0.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.4	+0.01	+0.02	+0.01	-0.00	+0.02	+0.02	-0.0	-0.1	-0.3	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.00	+0.01	+0.01	-0.00	+0.02	+0.02	-0.0	-0.1	-0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	-0.00	+0.01	+0.01	-0.02	+0.02	+0.04	-0.0	-0.6	-0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：BoE は利上げ期待をどの程度容認するか

きょうの注目通貨：GBP ↑

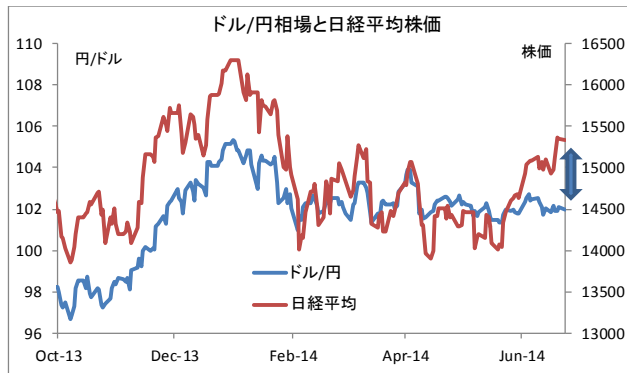
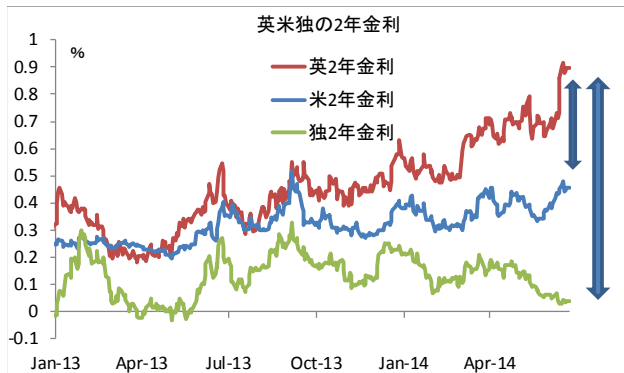
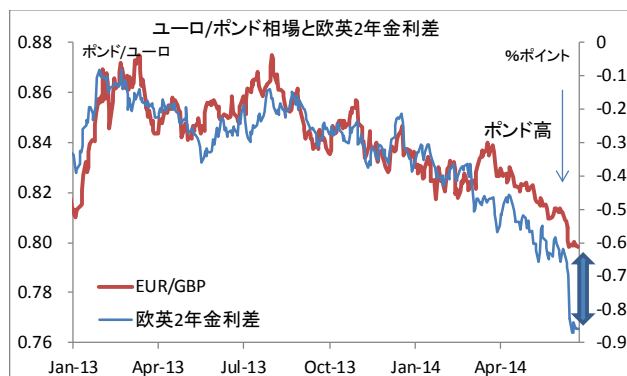
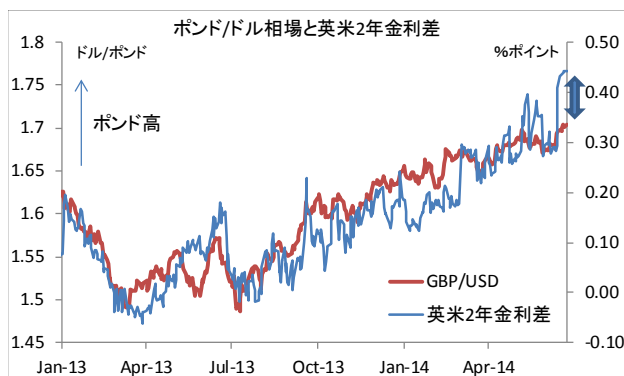
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦政府・閣議後に成長戦略発表				首相記者会見もあり
ドイツ 6 月 Ifo 景況感指数	17 : 00	110.4	110.3	
Carney・BoE 総裁、Bean 副総裁、Miles 委員、McCafferty 委員議会証言	17 : 30			5 月インフレ報告関連
英 5 月 BBA 住宅ローン承認件数	17 : 30	4.2173 万件	4.1000 万件	4 か月連続減の予想
Nowotny オーストリア中銀総裁発言	21 : 00			ややタカ派
Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言	21 : 05			タカ派、投票権あり
米 4 月 S&P ケースシャー住宅価格・前年比	22 : 00	+12.37%	+11.5%	
Coeure・ECB 理事発言	22 : 50			
米 6 月消費者信頼感	23 : 00	83.0	83.5	カンファレンスボード
米 5 月新築住宅販売件数	23 : 00	43.3 万件	44.0 万件	
Williams サンフランシスコ連銀総裁発言	7 : 30			ややハト派、投票権なし

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は本邦成長戦略発表、BoE 高官議会証言、米経済指標（消費者信頼感、新築住宅販売）が注目される。

潜在的に最も相場を動かしそうなのは **BoE 高官議会証言** で、6 月 12 日の Carney 総裁のタカ派発言以降、複数の BoE 金融政策委員が早期利上げに前向きな発言を繰り返しており、英国の短期～中期の金利が急上昇し、ポンド高に繋がっているが、金利差の拡大幅からすれば、対ドルで 1.75 ドル、対ユーロで 0.76 ポンド近辺など、もっとポンド高が進行してもおかしくない動きだ（**下図を参照**）。特にユーロ/ポンドは、ドイツと英国で 2 年債利回りの方向性が全く逆であることから、コントラストが出易い。あまり金利上昇やポンド高のスピードが速いとスピード調整のためにハト派的な表現を強調し「釘を刺す」可能性はあるものの、市場に早期の利上げを織り込ませているのは意図的とみてよく、ポンドが反落する局面があれば今後の利上げや更なるポンド高に向けた押し目買いの好機となるだろう。

安倍政権の骨太の方針と成長戦略の発表 については、法人実効税率の引下げや GPIF の積極運用について税率、金額やスケジュールがより具体化されれば、株高に繋がり、以前は連動性が高かったドル/円の押上げ要因として意識されるかもしれない。もっとも、成長戦略は既に大まかな方向性が分かっていることや、最近では日経平均とドル/円の連動性が低下していることから（**下図を参照**）、ドル/円の取引材料にはなりにくいだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641